

# 神楽通信

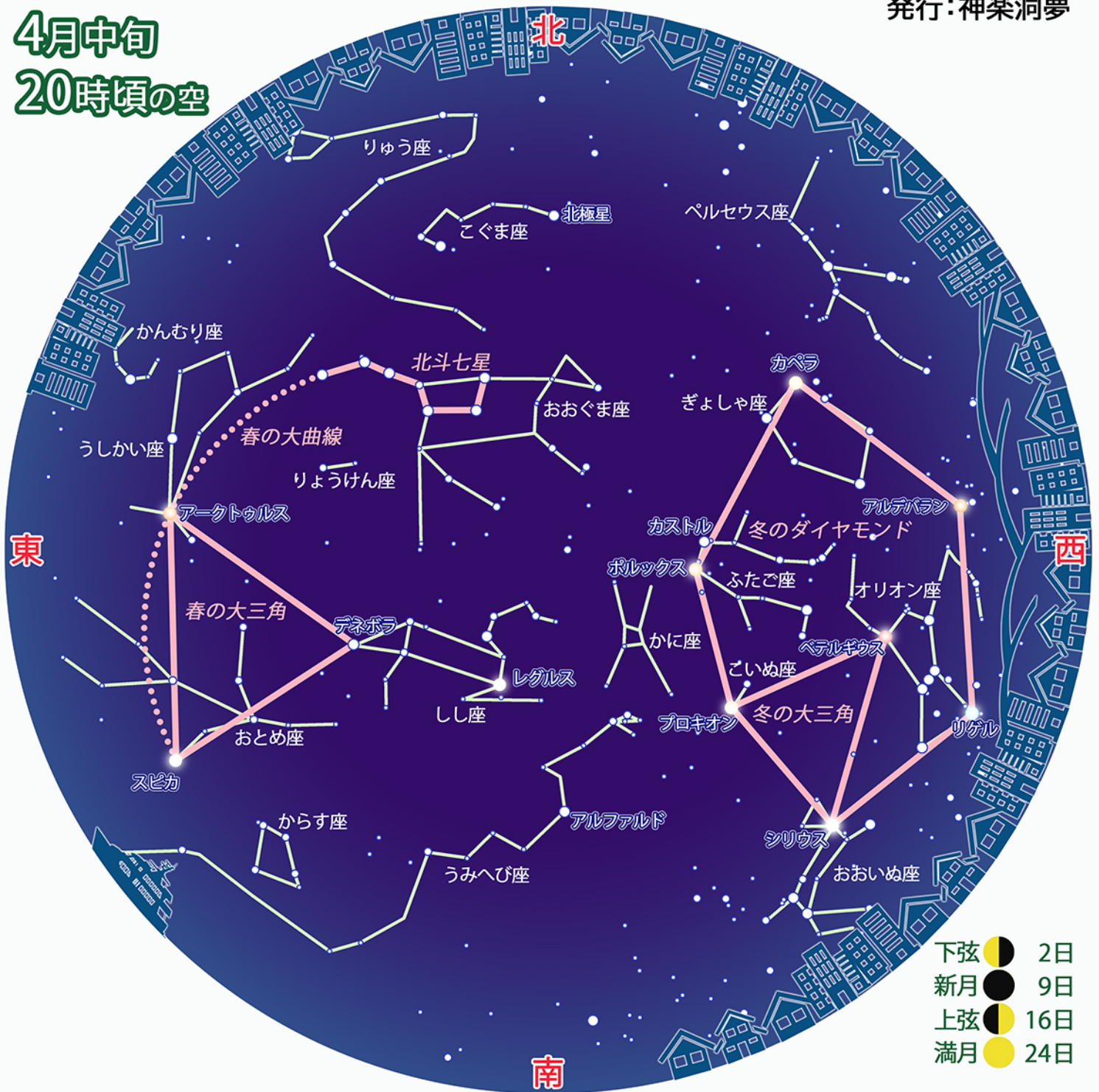
No.98

2024年

4月号

発行:神楽洞夢

4月中旬  
20時頃の空



4月に入って、暖くなり、寒さを気にせず星空を楽しむようになってきました。空を見渡してみると、西の方にはまだ冬の星座の星々が残っています。頭上付近には、春の星座であるしし座の1等星レグルスが輝き、北側にはおおぐま座の尻尾にあたる「北斗七星」が、東の空からは「春の夫婦星」のうしかい座のアークトゥルスとおとめ座のスピカが上ってきていて、本格的な春を感じさせてくれます。

## 若い星の集まり M44プレセペ星団

春の始まりの時季、空の暗いところで星空をじっと眺めていると、ふたご座のポルックスとしし座のレグルスの間に“ぼんやりとした光”を見つけることができます。かに座にある散開星団、M44プレセペ星団です。  
明るさはおよそ3等級あります。

「プレセペ」とはラテン語で「飼葉桶」という意味で、古代ギリシアでは、プレセペ星団の南北に輝く二つの星を2匹の口バに見立てて、間に見える“ぼんやりとした光”を口バたちが食べる飼葉として見ていました。また、中国では「亡くなった人たちの魂」と見られ、昔から人々はこの光を気にしていたことが分かります。

その後、望遠鏡の発明とともに、“ぼんやりとした光”が何十もの星々の集まりであることが判明し、「ビーハイブ（蜂の巣）」と呼ばれるようになりました。  
そして、観測技術の向上とともに、プレセペ星団が100を優に超える星々で構成されていることが分かり、現代では、私たちも双眼鏡を使って星団を見ることができます。

プレセペ星団の姿を見てみると、青白く輝く若い星々に混じって、オレンジ色の老齢の星の光も見えます。  
おじいちゃん、おばあちゃんと子どもたちが集まって賑やかに談笑をしているようで、かわいらしく感じてしまいます。



4月上～中旬の20時頃の南の空



M44プレセペ星団の姿 国立天文台

